

4. 社会に声を届けよう！

～未来をカタチに～

男女共同参画ネット ミモザしずおか

代表 向田 志保

1. 事業目的

- ①県議会・市町議会議員・審議会委員等への女性の政治参画を推進する。
- ②参加者のエンパワーメントを図り、女性の政治参画に向けて、ネットワークを構築する。
- ③参加者が政策や意思決定の場で活躍できる様、自分の考えを伝える力、コミュニケーション能力を身につける。

2. 事業内容

【対象者】政策決定の場への参画に意欲がある女性およびそれを支援する活動を希望する市民

【参加人数】各講座30人

9月から12月にかけて計3回、政策決定の場で活躍している女性講師を招いてお話を伺い、参加者とのディスカッションを通じて、女性の政治参画について考える。テーマは「政策決定の場で女性の割合を増やすにはどうすれば良いか」とする。実際に声を上げることで、どのような変化が起きたかを具体的に講演者に語っていただく。経験者の話を通じて、参加者自身が主体となって活動していくことができるよう働きかける。

【第一回講座】

講師：伊藤育子氏（前静岡県議会議員）

テーマ：県議会議員の経験から

コーディネーター：池谷廣氏（前静岡県くらし・環境部長）

【実施日時】9月18日（日）

【実施場所】ふしみや貸会議室 903号室



【アンケート結果】

- ・講師の伊藤先生から、たくさんの勇気とパワーをいただきました。
- ・女性から女性へのエンパワメント、知恵の継承がとても大切だと思います。
- ・時間で区切られテキパキしていて良かったです。もう少し時間が欲しかった。
- ・伊藤先生のお話がとてもおもしろかったです。力をもらった。
- ・もう少し時間があれば、グループワークが深いものになった。

【第二回講座】

講 師：坂本由紀子氏（前静岡県副知事）

テーマ：静岡県副知事、国政の経験から

コーディネーター：佐久間恵氏（富士市「Power up Fuji」副代表）

【実施日時】10月9日（日）

【実施場所】あざれあ 第一会議室



【アンケート結果】

- ・各市町村で女性の会をもつのもよいと思う。
- ・先生の分かりやすい貴重なお話に感銘を受けました。
- ・地道な活動の積み重ねが大切。そこから意見を発信し、アイデアを提言していく。
- ・坂本先生が皆の意見に耳を傾けてくださり、丁寧にお答えくださった。
- ・女性自身がもっと勉強し、力をつけるための講座を増やしたい。

【第三回講座】

講 師：花堂晴美氏（現清水町議会議員）

テーマ：子どもたちの未来のために

コーディネーター：石井真人氏（三島の30年後を語り合う若者の会代表）、池谷廣氏

【実施日時】12月4日（日）

【実施場所】ふしみや貸会議室 801号室



【アンケート結果】

- ・花堂先生、池谷氏、石井氏のお話、短時間ですが、有意義でした。
- ・公民連携の必要性を痛感する。
- ・思いを持った女性達のお話がたくさん聞けてよかったです。
- ・先生方のお話の内容が濃かった。ワークショップも充実した話し合いができて満足した。人間力、コミュニケーション能力を高める教育は本当に具体化しなければならないと思った。
- ・参加型ワークショップが楽しかった。
- ・ワークショップの時間が短かった。
- ・色々な立場の人の色々な話が聞けてよかった。
- ・自分自身の視野が狭いことがわかったので、勉強のモチベーションになりました。



3. 事業の成果

9月から12月に渡り、静岡駅付近の施設において、計3回、女性の政治参画に関する講座を行った。いずれの回も女性議員としてご活躍した経験のある方に講演していただいた。また、コーディネーターとして、当会顧問であり前静岡県くらし・環境部長の池谷廣氏や三島の三十年後を語り合う若者の会代表の石井真人氏らにお越しいただき、男性の視点からの女性活用に関するご意見も頂戴した。12月の講座終了後には、参加者の中から希望者を募り、清水町議会の傍聴にも出向いた。当会会員でもある花堂晴美氏の「清水町をより暮らしやすい町にした

たい！」という情熱が伝わる一般質問を受けて、市議会議員に立候補する意志を固めた方もいた。なお、懇親会も行い、参加者同士の情報交換や、市町議会議員の出馬の意向などを伺った。結果として、計5名の方が次期の市町議会選挙に出馬することが判明した。今後は、この講座を通じて築いたネットワークを有効に活用し、先輩議員からのアドバイスを活用し、当会会員を中心に、こうした方々の夢が実現するよう全面的に活動の後押しをすることを確認した。今回の参加者の方が、議員といった枠にとらわれず、様々な形で今後女性の政治参画を後押しする実践者となることを期待している。今回の講座の参加者は、女性だけではなく、男性の参加者が3分の1くらいを占め、女性の活躍の必然性に関する共通認識を持っていた。男女共同参画の活動は女性中心になりがちだが、今後は男性にも興味をもっていただくよう、積極的に働きかけていきたい。今回の反省としては、参加者の年齢層が高く、40代以上の方が大半を占めていた。学生向け、もしくは子供向けといった、若年層をターゲットとした講座、勉強会も企画していきたい。

まだまだ始まったばかりの当会の活動ではあるが、徐々に賛同者も増えてきた。これからは女性の政治参画に関するプロセスも重視し、まずは女性が「自分で動いてみる」そして「何かを変える」「自分も変わる」といったように、どんどん実践の場を踏んで、活躍の場を広げられるような機会を皆さんに提供していきたい。

4. 今後の展望

- ・静岡県男女共同参画団体の登録を行う。
- ・定期的に政治カフェを行い、女性の政治参画の拡大を促進する。
- ・市町とタイアップを行い、男女共同参画活動に関する勉強会、イベントを開催する。

5. 協働団体

- ・Power up Fuji (富士市) 男女共に生きやすいまちづくりを目指す団体

代表: 小櫛和子氏

- ・三島の 30 年後を語り合う若者の会 地域リーダー養成団体

代表: 石井真人氏

【後援】

- ・WIN-WIN の会 (東京都) 議員になりたい女性を後押しする政治団体

代表: 赤松良子氏 (元文部相大臣)

【平成28年度 あざれあ地域協働事業】

社会に声を届けよう ～未来をカタチに～

男性も女性も一人ひとりがお互いを尊重し、頑張りの認められる社会を実現するために、政治の場に「私たちの声」をどう届けるか？

政策決定の場で活躍してきた講師を招き、実際に声を上げることでどのような変化が起きたかをお話を伺い、参加者とのディスカッションを通じて、女性の政治参画について考えます。2時間じっくり聞き、話し、「未来のカタチ」を私たち自身が作っていくきっかけにしましょう！

 第1回講師 伊藤 育子 氏 (前静岡県議会議員) テーマ 県議会議員の経験から コーディネータ: 池谷 廣 氏 (前静岡県くらし・環境部長) 9月18日(日) 13:30~15:30 ふしみや会議室 903号室	 第2回講師 坂本 由紀子 氏 (前静岡県副知事) テーマ 静岡県副知事、県政の経験から コーディネータ: 佐久間 恵 氏 (富士市「Power up Fuji」副代表) 10月9日(日) 13:30~15:30 あざれあ第一会議室	 第3回講師 花堂 晴美 氏 (現清水町議会議員) テーマ 子ども達の未来のために コーディネータ: 石井 真人 氏 (三島の30年後を語り合う若者の会代表) 12月4日(日) 13:30~15:30 ふしみや会議室 801号室
--	---	---

◆講師のお話を聞いた後、参加者全員で話し合うワークショップを行います。

どの回も参加費無料！

主催：男女共同参画ネット・ミモザしずおか

申し込みの詳細は募集へ



5. 男女共同参画 連続基礎講座

ウィミズネットいわた

代表 鷹野 ゆき子

1. 事業目的

時代と共に、女性の置かれている状況や年代の違いにより、人々の意識も変化してきている。しかし女性の地位向上は根源のところではあまり進んでおらず、ともすれば逆行しかねない状況にある。

磐田市では、今年度より、男女共同参画センターの職員がいなくなり、図書の貸し出しのみが、市民活動センターに委託されて残された。連続基礎講座を行うことで、地域に男女共同参画の重要性をアピールする。

また、若い人たちに、今、社会で起こっていることがどのように男女共同参画と関係しているかを考える機会を提供し、気づきのきっかけとしてもらう。

一人でも多くの人に気づいてもらい、男女共同参画社会の実現を進める。

2. 事業内容

〈男女共同参画 基礎講座 連続3回〉

若い年代の女性に関心を持っていることや、現在、社会の中で問題として関心を持ってもらいたいことをテーマに取り上げた。

【講師】 笹原 恵 先生
(静岡大学情報学部 教授)

【テーマ】 第1回 待機児童

第2回 女性と働き方

第3回 女性と防災

【実施日時】 第1回 8月27日(土)

午前10:00~12:00

第2回 9月3日(土)

午前10:00~12:00

第3回 9月23日(金)

午前10:00~12:00

【実施場所】 磐田市豊田東交流センター

【対象者】 静岡県西部地区の男女

【参加人数】 延べ 96人

(磐田市、浜松市、袋井市、静岡市からの参加があった)



第1回講座



第2回講座



第3回講座

【アンケート】(抜粋)

- ・日々肌身で感じていることをデータの裏付けで確認し状況の深刻さを再確認しました。当事者である私達女性一人一人が各自の立場で出来ることをしなければならないと決意しました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・古い考えの中で生まれ育って来ました。子育て・育児の人も周りにいません。今回は見聞を広めさせていただきました。ペイドワーク・アンペイドワーク・・・初めて知りました。
- ・避難所の問題とジェンダーは直接的に結びつくのか疑問に思った。避難所との問題と結びつけるのではなく、性やDVについて、また社会的な女性の立場について話して欲しかった。結局、何について言いたかったのかわからなくなってしまった。避難所の問題についてなのか、ジェンダーについてなのか、DVとモラハラに

ついてなのか・・・。わからなくなってしまった。

・災害時は、ほとんどのことがうまくいかない。人の精神状態も不安定になる。そんな中で誰もがなるべく安心して生活できるようにするのは、難しいことだと感じました。リーダーシップをとれる人、それに協力できる人がたくさんいること、輪を広げていくことで、避難所での生活が少しずつ向上するのかなと思います。東日本や熊本・大分の知恵を学ぶことで、いざ自分たちがそうなった時に活かせると思います。

・被災するという事から、長期的にどのようなことが起きて来るのか、日常の関係性、ジェンダーの課題が根深く影響してくることが理解できました。

・期待の差異からくる自己評価の高低、達成の差が評価の差異になるという話が新鮮で納得しました。自分の子どもの選択肢を狭めないようにしたいです。

・先進的な自治体の取り組みや、自治体担当課保育現場の苦勞が分かり、目先の事だけでなく、構造的な問題だ・深い問題だということに気づき、参加して本当によかったです。最後の「何ができるか」というのが心に刺さりました。まずは知り、文句を言うのではなく、互いに成長し合える関係づくり。仲間と共有していきたいです。

・ジェンダーにとらわれた働き方、女性のアンペイドワークがいまでも認められていないことに改めて気がついたが、自分は育児とフルタイムワークの最中で、ペイド/アンペイドワークのバランスを(育児後のキャリア形成も含めて)どう考えたら納得して働けるかということに悩んでいるので、そのヒントを得るために参加した。結局は個々人の価値観の違いなのでしょうけど、周囲の専業主婦の気楽さをうらやましく思いつつ、でも自分のキャリアを今捨てて後悔ないか、毎日辞めようか悩みながら過ごしている。この悩みを共有できる人もいなくて、相談、考える場を期待していた。

・アンペイド/ペイドワークの話で、単純に時間比較で考えると男女同じくらいといえますが、質という面でも考慮しないとペイドワーク側は少し不利かと……。アンペイドは自分のやり方で、好きな時間にでき、自分のペース、成果を問わない気楽さがあるからです。

・お世話する性としての女性、ジェンダーのアンペイドワークが社会を支えているのは事実。これからいかに生きるか、男性も女性も豊かに生きていく、誰もが生き生き生きる社会へ構造そのものを見直してゆく必要があると思いました。ありがとうございました。

・女性は、結婚、妊娠を通して働き方が大きく変わっていきませんが、子育てしながらも自分らしくキラキラ輝ける人生を歩めるよう、周りのサポートが必要不可欠だと思いました。子育てサポートの優良な企業の例のように、社会全体が女性の働きやすい環境をつくっていったら、もっと女性の社会進出の機会が増えると思います。男だから、女だから……。という役割の差別をする時代はもはや世界からも遅れているので、多様な生き方を選択できるような社会になればいいなと思いました。

・データ表が多く解かりやすかったです。若い頃にこのようなサポート制度、講座があったらよかったと思いました。(仕事を続けたかったけど出産で退職するしかなかった。)
「女は家の事をやってあたりまえ」が変化していき、うれしいです。→若い人を理解し、育て、サポートするのも私たちの仕事だと思います。

・今、専業主婦ですが、子育てをしている中で社会に取り残されていくような焦りをずっと感じていました。そして、今日のお話で自分自身も男性的な視点から物事を見ている部分が強くあり、今の専業主婦でいる状況にとっても自信をなくしている事に気づくことができました。アンペイドワークの大切さについて今一度考えてみたいと思いました。

・ニュースで”女性活躍推進法”についてみまし

たが、復職してみて、実際はまだまだで働きにくい世の中だと感じています。現状のルールだと、辞めざるを得ない状況で、でもそれだと女性には働き続けられないし、それを理解してほしいのですが、それはとても難しいことだと思いました。

・①資本主義の残念な結果が、今、現代にあらわれていると思う。②アンペイドワークの大切さ、価値を納得できた。③「結婚しない、子どもを持たない選択→子育ては社会全体で」&「子育て世代のわがまま←周囲への感謝」……。これがうまくまわる社会に……

・女性は手に職を持ったり資格を持っていないと、再就職や働く条件が厳しいことがよくわかる。自然災害とはいえ、いろいろなものを失ったからの立て直しには女性だけの力では厳しいということがよくわかった。

・ジェンダーの根深い課題とともに、被災を乗り越えてどのような社会を創っていくのか、先生が過渡期と言われた言葉が、本当に私達が、全ての人が、皆それぞれに生き生きと人生を創造できるように、共にできることを考えてゆきたいと思いました。

・被災地でのDV、性被害の件数が多いことに驚いた。女性の再就職先の少なさ、実際に被災したときのことを考えると不安になる。

・私も子供の頃から虐待、モラハラを受けて育ち、何度も自殺未遂をしました。初めての彼にはDVを受け続けてました。男性がどうやって育ち、女性に甘えることで、はけ口にしている、男性の脳の考え方が女性と違うのがわかりました。そういう、DV・虐待・モラハラに会ったときの対処方法を教えてほしかった。

・「説明できる力」が必要という言葉が胸にひびきました。避難所において女性や子どもに必要な配慮を推進できる人間になりたいけど、「ジェンダーとは何か」「なぜ女性にだけ配慮が必要なのか」(女性専用車がなぜあるのかと言うような人たち)に説明するのはとても難しいです。

・それを難しいと思うのは、私が幼いころから「女らしく」「一歩下がって」という価値観にどっぷりつかって育ってきているからです。自己評価が低く成功体験が少なく、一歩踏み出せない。ジェンダーにとらわれて育ち、そのように生活してきていることを自覚しつつ、自分の子どもたちにはそうならないと思う、なるべく性別役割分業を意識させずに育てているつもりです。男には男へのプレッシャーがあることもよくわかるので、「男」「女」の「こうあるべき」の押し付けがない社会になれば男性も暮らしやすくなるのにな・・・と思います。セクシャリティへの配慮は、無関心な男性だけではなく、無関心な女性もこわいなと思います。性犯罪を抑止させるためには避難所のあちこちに啓発ポスター（男子トイレの中にも）、被害相談の窓口の案内は、男子トイレの中や子どもが目にする場所などにも貼った方がいいと思う。犯罪、暴力、性犯罪に関しての警告は、被災地や被災地以外でももっとラジオやTVで流した方がいいのでは。警告ポスター、映像などを目にすることで、軽い気持ちで悪いことをしようとしている人への抑止効果はあると思う。



託児の様子

3. 今後の展望

<10月30日 交流会の開催>

【会場】豊田東交流センター

【時間】13:30～

講座の中では参加者が発言する時間があまりとれなかったので、交流会を開催して、参加者同士の意見交換をする。

<12月17日 憲法講演会&上映会の開催>

【会場】豊田福祉センター

【講演会】10:00～12:00

【昼食&交流会】12:00～13:00

【上映会】「日本の青空」

13:00～15:30

男女共同参画は法律や制度に大きく関与していることを講座の中で学んだが、そのもととなる憲法について学び、広い視野で社会構造を考えることができる機会とする。

4. 協働団体

・豊田みなみ保育園内

ファミリーリソースセンター「たいむ」

第1回目では、連携・協働団体の「豊田みなみ保育園内 ファミリーリソースセンター「たいむ」の園長先生と元市役所子ども課課長にも加わっていただき現場の具体的な情報も聞くことができた。

男女共同参画推進部 平成29年度あぐれみ地域協働事業 平成28 豊田市男女共同参画推進事業

見えない根っこに気がつく講座

— 今日の幸せと未来の希望のために、もっと知ろう —

講師 熊原 康 先生 (静岡大学情報学部教授)

期	日	内容
第1回	8月27日 (土)	【09時開場】 行きたい保育園に入れるの？ — 子供を産んで働く時、パパとママと今の育児の問題から見えるもの —
第2回	9月3日 (土)	【女性の働き方】 働きたい？ 働けない？ — 多様な生き方を求めたい！ を実現させる —
第3回	9月23日 (金)	【女性と防災】 女性が参画すると変わる！ — いざという時のために、女性特有の問題って何？ 今迄の避難所運営で見てきた事 —

時間 午前10:00～12:00

会場 豊田東交流センター (豊田市高見丘99-1 豊田東小学校・幼稚園の北隣)

参加費 無料 ※1回だけの参加も可

定員 40名 (下記に申し込んで下さい)

託児 6ヶ月～未就学児童、保険料1人100円。
(10人まで、2週間前までに申し込んで下さい。別途詳細をご案内します。)

お申込み・お問合せ ウィミズネットいわた FAX 0538-74-3667
E-mail hanakojp@gmail.com 電話 090-5455-1581(豊野)
URL http://blog.goo.ne.jp/women-net-iwata

※FAXでお申込みの場合、下記に記入して送って下さい。お電話・メールでのお申し込みも氏名、電話番号、託児希望の方はお子様の名前・年・月齢・性別をお知らせください。

氏名	電話番号
住所 〒	
託児希望の方	年 月 日
お子様の名前1	【 〇 〇 月 〇 日 】
お子様の名前2	【 〇 〇 月 〇 日 】
お子様の名前3	【 〇 〇 月 〇 日 】
その他特記事項	



【感想】(抜粋)

- ・国の取り組みを内閣府の人から直接聞けて良かった。こんな機会はめったにない。
- ・従業員200名ほどの会社で、これほどワーク・ライフ・バランスに取り組んでいるなんて驚きだった。
- ・子育てをしながら仕事を持つのは大変で、どうしても別に住む両親に頼むしかない。女性の仕事と家事育児両立は、現状はなかなか難しい。
- ・今日のセミナーは大変参考になった。もう少し時間がほしかった。

- ・みんな環境が違い抱えている問題も異なるから、両立は女性の働き方をそれぞれの立場で考えていかないとけない。
- ・こういうセミナーを多くして、知識を得、悩みを解決していく機会が必要だ。
- ・ワーク・ライフ・バランスの理解が出来た。男女の役割分担意識を考え直す切っ掛けとなった。
- ・家族や地域で高齢者の助けが必要な時は、若い人たち、どんどん正直に言ってね。出来ることは何でもするよ。

3. 今後の展望

国の施策、企業の取り組み、子育て地域活動などの話をしっかりとらえ、今後私たちが身近なところで実践活動を進め、少子化対策の取り組みをしていく。

4. 協働団体

- ・静岡県海外研修女性の会浜松
- ・静岡県少子化対策協議会
- ・ふれあいサポートネット「ふわっと」

あざれあ(NPO法人静岡県男女共同参画センター交流会議)
地域協働事業

セミナー

仕事と生活の調和を考える —人口減少社会と男女共同参画の課題—

少子化による人口減少は今後益々進むと考えられ、男女共同参画の課題は大きい。仕事と生活がバランスよくとれば、女性の働き方も変わり、安心して出産できる環境となる。企業の取り組みの変化や性別役割分担意識改革などにより、男女がお互いに協力し合う状況が構築され、少子化の歯止めとなり、男女共同参画推進の一助となる。

●日時 平成28年8月27日(土) 10:00~11:30
●会場 あいホール 301・302 講座室
(浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター) 中区中3-3-1

●テーマ 「仕事と生活の調和を考える —人口減少社会と男女共同参画の課題—」
●講師 〈進行〉静岡県少子化対策協議会会長 佐藤克昭氏

施策

内閣府男女共同参画局 中島智史氏

企業

ワーク・ライフ・バランス実践取組企業 (株)ミダック

子育て

ふれあいサポートネット「ふわっと」 榊原真理氏

■定員 60名 先着順
■対象 一般市民、企業関係者、働く女性、働きたい女性
■参加費無料 ■駐車場有 1回につき100円
■参加申し込み
裏面の申込書を郵送、ファックス、Eメールにてお申し込みください。
申込先 みらいネット浜松 〒432-8061浜松市西区入野町20012-11
ファックス: 053-523-6262 Eメール: cbf_05258@nifty.com

■主催: みらいネット浜松
■協力団体: 静岡県海外研修女性の会浜松、静岡県少子化対策協議会
浜松ふれあいサポートネット「ふわっと」
■後援: 浜松商工会議所
■委託事業実施団体: みらいネット浜松

7. みんなで「家族」のことを考える！

Part 2

しずおか女性の会

代表 島田 充子

1. 事業内容

【日 時】2016年8月30日（火）

10:00～12:30

【会 場】静岡市女性会館 アイセル21

研修室（託児あり）

【内 容】

講義「現代家族の変化と家族の未来」

ワークショップ&発表

まとめ

【参加者数】70名

昨年、「家族について」の講座を当事業で採択していただき、犬塚先生から大変分かりやすい講義を受けることができました。日本が男性優位の社会として作られていく過程を、歴史的に、客観的に知ることができました。

近代社会が、日本人の家意識を作り、個々では意識することさえできないほどに、日本人のアイデンティティーを形成した経緯（いきさつ）。そこで学んだことは、社会の形態によって、人々の営みや意識が大きく左右され、心ならずも人々が適応していくことでした。

今回はその続編として、古い家族から解放され、一億総活躍のキャッチフレーズのもと、女性と男性が共同参画できる新しいワークライフバランス社会の実現を期待しつつ、でも、現状

は少子高齢、人口減少、ちょっとマイナーなイメージを提起する暗い社会を、その現実を認識した上で、よりよい未来像に描き変えること、暗さを打ち破る方策を模索して、次世代に新しい希望をつなげることを講座の目標に掲げました。

先生の現代家族の講義は、私たちが今、身近に意識している家族像よりずっと深刻で、家族の価値観をぐっと転換しなければならないほどシビアでした。

おそらく参加された多くの方々も、戦後の家族形態から大きくチェンジする現代の若者の生活や意識に少々驚きを感じたのではないのでしょうか。

〈近代家族像からの脱出〉

先生の提起された最初のテーマは、家族とは、いかなるものか。家族の解釈を変えることでした。たいてい家族といえば、モデルは近代家族。でも、この家族に執着しては、新しい時代には適応できないことがよくわかりました。

多くの若者たちは、安定した収入もなく、結婚して子育てしたくても、共稼ぎの無理な生活。すれちがい。離婚。格差の増大。こんな不安定な社会の中で、未来を設計しているのです。

人に、必要とされ、愛され、安心を与えてくれるものが、人にとってなくてはならない家族

ならば、今の若者にとって、それは、家庭とか、親とか、結婚とか、古い固定観念に縛られた家族ではなく、個々人がそれぞれの価値観をしっかり持ち、充足すること。未来の家族は、多様な人間性や個性を受容する、たとえば同居人は、同性でも他人でもペットでもいい、また、寄り集まったシェアハウスのようなものでもいい。そこには、柔軟な発想が求められていました。

新しい家族の創出には、一人ひとりの自立はもとより、従来の家族単位ではない、個人単位の社会保障制度を充実させることが必須でした。

男女が共に働き、脱ジェンダーし、家事も育児も共にする、みながシェアしあう優しい思いやりに満ちた社会の実現。

現代は、新時代への過渡期であり、重要なエポックなのだと思います。

先生の講義のあらましを報告します。

以下、四つの視点で話されました。

演題「現代家族の変化と家族の未来」

1. シングル化する日本社会
2. シングル化と拡大する家族格差
3. 個人レベルでの対策
4. 社会的レベルでの対策

1. シングル化する日本社会

将来家族はどうなっていくのか、一言でいうと難しい。家族は人間が生きていく上でどうしても必要だが、形はどんどん変わっていく。多様化、個人化。激変していく。今までの家族でないと家族でないと思っていると幻滅する。結婚して2人くらい子どもを産んで、が当たり前という考え方はやめて現実を冷静にとらえるべき。

現代は、単身、独身でなくシングルという言い方がぴったりする。1970年代は高度経済成長で人口も増え、結婚相手もいっぱいいて妻を養うことができたが、80年代は低成長で、

日本型終身雇用も崩れ、女性も働こうとパート主婦が増えた。しかし、家事、育児、には手を抜けない。そういう家族のあり方には無理があり、ついていけない。

結婚も無理。30代前半では男2分の1、女3分の1が未婚。欧米では事実婚や同棲が多いが日本は2%で、結婚が人生の大きな分かれ目になるので未婚が多いということと少子化になってしまう。40代でもシングルが多くなり、中年シングルが高齢化するとひとりになる事が多く、孤立化、無縁化する。下流老人になり、経済的に破たんするという危うい予兆がある。

2. シングル化と拡大する家族格差

かつての日本では、家族だけが福祉資源だった。福祉は家族でやるのが常識。

近代家族は男が働き、女が家を守る、社会保障や福祉は全部家族でやれという話です。企業福祉と家族福祉が一体となって、女性は家にいて、ただ働きで低福祉。『家族は福祉の含み資産』という人がいました。

結婚はばくちのような側面があり、義父母の介護が必要になれば妻の負担はとても大きい。

家族に福祉を依存するのは無理になり、介護保険ができた。しかし、介護保険が今、機能していない、要介護認定が厳しくなり、維持が大変になりつつある。

家事、育児、介護の負担を考えれば、シングル化は加速する。

20代女性の結婚相手を選ぶ条件は68%が400万円以上の収入。しかし、30代でもその収入以上は25%しかいない。結婚なんて程遠い。パートに出て、家事育児もやり、介護も負担となると結婚なんてしたくない、やってられない。行き詰まり。

低所得者の離婚も増えている。家族関係もばらばらで、孤立化しやすい。富裕層にはケアも有利で、格差は拡大する一方。家族、経済、社会保障は、連動しやすく、負のスパイラルに。

今のままだと絶望しかない。日本の社会がどんな選択をするのか、とにかく変えるしかない。

3. 個人レベルでの対策

「婚活」プラス「一人で生きる準備」というダブル戦略が必須。男性も女性も自立する。若者も高齢者も。

市の婚活、否定はしないが今のままの状態では無理。脱性別役割分担、男も家事育児をやる。キーワードは脱ジェンダー、ワークライフバランスの実現。

とにかく、今の家族観に縛られているのでは、解決はできない。

熟年再婚、脱孤立化のための共同生活、バーチャル家族や、ペットとの暮らしも、オタク人種も OK。柔軟な考えを持つこと。

4. 社会的レベルでの対策

暗い話ばかりでしたが、側面はこれから。方向を個人単位に変える。

一生独身でも生きていける個人単位の社会保障制度を土台にして家族形成支援をしていく。

婚活は今までの家族を前提にしない。嫁入りの発想から抜け出す。婿入り支援、ターン支援、シングルマザー婚活、選択的夫婦別姓、国際結婚支援。

現在の標準家族モデルを前提とした社会保障制度の全面的見直しをする。

- ①年金制度
- ②健康保険
- ③住宅政策
- ④雇用対策
- ⑤養子親制度
- ⑥社会参画支援

5. まとめにかえて ～あらためて

「現代における家族」とは

・家族とは～「自分を必要とし、自分を大切に

してくれる存在 → だったら「家」や「近代家族」には全然限らない。「同性」でもいい、「他人」でもいい、「人間でなくても」いい、(庭の木、浜辺で拾った石) 柔軟な発想。

・孤立社会、無縁社会から個人と家族をともに救う方法 → 「家族やパートナーを作りやすくする方法」と「家族やパートナーがいなくても安心して生活できる環境を整備する方法」のふたつが必要 (後半がより重要)。

◆質問に答えて

①社会保障制度充実の財源は？

今のままでも配分の仕方を変える

②ジェンダー平等どうする？

政治を変える。せめて自分の望む政策を掲げる政党を選ぶ。

③声をあげる。女性の政治家を増やす行動に参加するなど

⑤結婚することを常識とは考えない、など。



講義の後のワークショップ
7 グループ

時間の都合で、三つのテーマに絞った

- 1 講義の感想
- 2 家族の現状
- 3 願い

以下、ファシリテーターからの報告

1 グループ

柴田まち子（しみず女性の会）

1. 感想

①グループの殆どのみなさんは初めて家族の講義を受けました。新鮮に感じたということは、静岡に住んでいれば都会の方と違って、日常生活の上で特別支障もなく家族について深刻に考えていなかった。

②家族の在り方が時代とともに変化してきましたが、今までの日本の家族の在り方が日本を築いてきたと思っていましたから、あまりにも早い時代の変化に戸惑い、講義の内容は頭ではわかって、なかなか受け入れるのに時間がかかります。

2. 現状

①自分の老後は経済のことも考えて生活レベルも下げてきたので今は生活できている。（生活設計をしてきた）

③娘が10年前離婚、親として娘の将来が心配。

④私たちの年代は、親を見てきましたが、子どもたちが親の面倒をどこまで見られるか心配。葬儀とか、年季法要のあり方など、どうなっていくのでしょうか。

④親と子どもの考え方の違いが大きすぎる。

⑤子どもに迷惑がかからないよう、自立できる生活をしている。

⑥結婚しない子どもを抱え、親の死後どうなっていくのか心配です。

グループ中、4人は結婚しない子どもを抱え、親の死後、子どもたちの生活に不安を抱いている。離婚した娘の将来もどうなるのか、家族の悩みの多くを占めていると感じました。今日の講義から、子どものことより、親が考えを変えていくしかないとの結論です。

3. 願い

①一人の人間として、尊厳を持って生きて死にたい。

②個人単位の社会保障制度が早くできると思います。

③家族の中での話し合いが大切。

④家族は社会の縮図と思って生きてきたし、母親も子どもの幸せだけを考えてきたので、今の若い母親のあり方にも疑問を感じることも多々あります。

4. まとめ

・あらためて家族とはといっても、家族の問題は、課題が大きすぎて、時間がかかると思います。

・現在、結婚できない人が多いことに社会もかわっていく必要がありますが、社会に頼らず、老後も一人ひとりが自立していくこと、また、考えを改めていくしかないとの結論でした。

2 グループ

大石潤子（しずおか女性の会）

1. 感想・質問

・今までの家族のイメージを払いのける講義で、考え方をかえなくてはいけないと思うようになりました。

・柔軟な発想が必要、大きく家族を捉える必要、広い心を持って行きたい。

・そうはいつでも早く妥協して結婚してほしい。

・社会保障の個人化でかえって今までより悪くなりそうで、良くしていくには何が必要ですか？

・草食男子 食事の影響は？

2. 現状

- ・高齢者2人だが、こどもの家庭を支援している。自分たちが支援される必要が出たら即大変心配。
- ・未婚の娘は将来のために個人年金をかけている。
- ・娘は実家頼りの出産、子育て。
- ・子どもの家族と住んでいる。仲良くやっていきたい。
- ・子どもが地元にはいないためがんばるしかない。
- ・健康でぴんぴんころりの生活をしたい。
- ・望んでもそうは中々いかないの・・・。

3. 願い（これからの家族）

- ・住宅を個人の力でなく社会の責任とした対策を、で政治に要望したい。
- ・介護が必要になったとき子供たちに負担をかけずに生活できるように。
- ・今日一日としてがんばりたい。
- ・健康で毎日を過ごせるように。
- ・ある程度目をつぶって早く結婚してほしい。
- ・充実した社会保障（消費税に頼らず）がどうしても必要。

3 グループ

佐藤エイ子（しずおか女性の会）

1. 感想・質問

- ・「家族とは」を考えると深いです、絆・つながりを改めて考えさせられた。
- ・今後の家族のあり方、ジェンダーが鍵ということについて良くわかった。
- ・一人で生きていく工夫。
- ・三世代で育ったので子どもにも「お墓を守るなど」と育ててしまった。
- ・「近代家族」を引きずっていることは、考え方を変えなければならないと思う。
- ・社会の対応➡自立すること
「家族とは」一人ひとりが善い生き方、それぞれ尊敬できるような人の集まり。

（質問）

経済成長が活発化すれば婚活もうまくいくのでしょうか？

2. 現状

- ・老夫婦2人で暮らす…2人。
- ・夫婦・息子夫婦・近くに娘夫婦と孫2人。
- ・共働きの息子夫婦と同居予定。
- ・年金生活になってからの医療費の負担が不安、病気で子供に迷惑を掛けないように工夫している。
- ・1人っ子で未婚の子。付き合っている人はいるが結婚まで考えているのか？
- ・年をとってしまった娘・息子に困っている。少しずつ変わっていかなくてはと思う。

3. 願い

- ・共に健康で、死ぬまで元気で（周りに迷惑かけたくない）。
- ・子供たちにも個人単位の社会保障が充実していれば、私たちの死後も安心して生活できそう。
- ・孫は無理かな？
- ・経済的なことを考えずに過ごせたらみんなが社会的承認を得られる実感を持てるように。
- ・「家族」は生きるための「巣」（とても大切）。
- ・介護保険制度ができたが、最近は「介護は地域で」という方向になっている。
- つまりは家族で、ということではないか。
- ・若者が一次産業で生き生き希望を持って生活できるようにして欲しい。家族の形式にこだわらずに定着した生活ができることが、村落・伝統・環境が保たれ互いに助け合って、持続可能な世になることと思い願っている。

4 グループ

豊島智江（ゆい女性の会）

1. 感想

- ・社会保障制度の全面的見直しという意見に賛成です。
- ・未来に希望を持てるような社会を作ってほしい。

- ・家族が家族らしい家族になって、社会を作っていくことも大切。
- ・夫と妻、親と子がどういう存在になっていくのか。
- ・富める者がさらに富めるような国のやり方は改めてほしい。どのような人も健康で文化的な生活ができるよう、基本的人権が守られる社会の実現を望む。
- ・今の政府のやり方（アベノミクス）は、格差をさらに大きくする政策をとっている。

若い方の意見です→

- ・20代30代の独身女性は、最低限生きていける収入はある。興味があることに時間を費やし、そこで生まれた交流もあり、寂しさを感じない。とりわけ、男性の必要を感じない。未来像としては、老後は同じ境遇の人たちとシェアハウスで暮らしたい。シングルの不公平さはつねづね感じているが、そのうえで、近代家族像から遠ざかりたいように思っている。

2. 現状

- ・夫と二人暮らし。長男未婚、長女既婚2人の子供あり（離婚を考えているが子が反対）親は孫のことを考え悩んでいる。
- ・一人息子（結婚しないで悩む）。
- ・友人と猫2匹、犬1匹（若い方）。
- ・5人の子どもは2人は結婚したが3人は独身、安心して結婚できる社会になってほしい。
- ・孫育てが忙しい。子育ては厳しい。
- ・少子高齢化になるような政策がとられて来たように思う。
- ・二人の息子は結婚して、産休明けで仕事復帰したいが保育園がない。県外で親も遠く困っている。

3. 願い

- ・誰もが一人であっても、病気になっても安心して生活できる社会になってほしい。
- ・自己主張することによって、テロや戦争が起きる現状を良く考える必要がある。日本は、まだ秩序が保たれているので、今後、悪い方向に

進んでは困る。

- ・格差社会の是正。富める者が税金を納め、消費税をなくし、すべて所得に応じたものにしてほしい。
- ・いちばん大切なことは、誰もが平和に心豊かに暮らせる社会だと思います。そのための社会レベルでの対策が実現できることも一つの方法。
- ・若い人の働く条件が、厳しい。家族と一緒にいられる働き方になってほしい。
- ・日本は教育費が高いので、なおしてほしい。例えば、オスプレイ1機なくせば、国立大学を無料にできる。
- ・高齢者と若者の価値観・考え方の違いが大きい。教育の内容や生命の尊さを考えるような政治のあり方を望む。

5 グループ

木村幸男（メンズサポート静岡）

1. 感想

昨年に続く講演会で、今年は家族問題に絞られたので参加者の関心も強く、講演はまるでSEALDSの奥田君が乗り移ったかのようにあの温かな犬塚氏が、日本の社会政策のあり方をラジカルな警告を込めて、熱っぽく過激に論を展開し、実に魅力的な講義になった。

これほど挑発的でシャープな講演は、めったに聞くことができないので、多くの政治家・代議士・官僚・市民に聞いてほしい内容だった。

残念だったのは、午前中に終わるという制約があったため、講義の後のワークショップにあまり時間が取れなかったこと。

そのため、これからどうしたらいいか、もっとも肝心な話題となるべき、未来志向の話し合いができなかったのは、本当に残念だった。

2. まとめ

しかし、最後に犬塚氏は、「各政党がこれからの社会政策にどういう案を持っているかを、しっかり確認した上で市民が投票するようにな

れば、住みやすく、生きやすい社会を実現していくことは不可能ではないはずだ」という、ポジティブな助言をして、暗い話題が蔓延する社会でも、希望を持って生きるべきだと、受講者を元気づけてくれた。

もう、見事というほかない、じつに素晴らしい講演会だった。

6 グループ

末吉嘉恵（NPO 法人よしよし）

1. 感想

- ・従来の家族のあり方に漠然とした疑問を感じていたのですが、先生の講義を受け答えがあったような気がしています。
- ・家族主体を基に個人のやるべき目標と役割を見直す時に来ている。
- ・「一人で生きる準備」これが大切だという話、本当にそう思いました。
- ・目からウロコのお話でした。（新聞などでいろいろ見聞きしていましたが）
- ・自分個人で生きていける力をつけていこうといつもしています。より、やって行こうと思いました。個人単位での社会保障が良くなればと常々思っております、もっと若い世代も希望や生きやすさを感じられるようになると思います。
- ・女性も働き、男性も家事をすることが大切とわかった。
- ・家族に頼ることが当たり前だと思っていたので、目からウロコでした。
- ・未婚少子化、離婚がタダ、家族と連動して経済社会保障の事。

〈まとめ〉

個人を尊重しながら周りを大切にする生き方を学んだ。

2. 現状

- ・4歳～70歳の年齢のギャップを感じている。（考え方の違い）（いろいろなアイディアがでる）
- ・結婚しているのになぜ子どもがいないのかと

責められる事が多く、言い訳を探しながら生きている状況です。

- ・家族：主人死亡、私一人とペットネコ。
- ・子ども5人3世代同居、まだ介護はしていない。
- ・私は友人とワンコ1匹、猫2匹で今住んでいます。より良い形になるように、楽しく生きられるようにしたいと思っています。話し合いは大切。お互い個人。やっぱり話をし、確認なども必要。
- ・我が家は家庭がうまくいっていない現状がある。
- ・20代の子どもがいて、結婚に対する考えを持つというよりも自立する事が最優先であるような気がする。子供達が家に戻って来て一緒に住むという将来は考えにくい。

3. 願い

- ・私も今の生活が幸せです。（お一人様のかた）
- ・「こうあるべき」という押しつけを無くし、それぞれを尊重できる社会に。
- ・考え方、また将来に対する準備をしていこうと思った。
- ・家族仲良くやっていきたい。
- ・個々の幸せの形。・幸せとを感じる世の中。
- ・これからの人生が重要と感じて生きる。

〈まとめ〉

一人一人考え方や環境が違うけど、相手を思いやれるような社会に。

お金はなくても心に余裕を持っていたいし、他の人も助けたい。

個々は違うけどそれぞれが幸せと感じられる社会に！！

7 グループ

谷直子（女性会館）

1. 感想・質問

- ・社会保障を個人単位に考えるのは必要だと思った。
- ・自分の家族において疑問や不満を明確に表し

てくれた。

- ・現代の家族の形態、現状が分かった。一人で生きることができる社会が必要なことも分かった。
- ・講義内容が現在の我が家そのもの、低所得、性別分業など問題は多い。
- ・自分の老後はピンピンコロリにならなければいけないと痛感しました。
- ・これから社会制度を早急に変えていくことが大切。

2. 現状

- ・結婚していない息子、娘がいる。
- ・夫婦と子ども一人、外に出た大学生の子ども2人。(経済的に苦しい)
- ・今は安定した年金生活。苦勞の見返りだと思う。
- ・結婚できないのか、しないのか娘がいる。
- ・家族が健康、今のところ不満はない。
- ・夫の家族はジェンダーが根強い。
- ・6人家族。息子夫婦と同居。
- ・13年の主婦業から共働きに。

3. 願い (こうあってほしいこと)

- ・今の家族構成で健康で生活できると良い。
- ・正規社員で安定した働き方ができるように。最低賃金を上げてほしい。国の社会保障を大幅に充実してほしい。
- ・家族制度、社会制度を変えてほしい。年金支援制度改革。貧困支援充実。
- ・共働きで3人の子育てが大変。子どもを産んだら支援をもっと多くしてもらえる社会に。
- ・あらゆる形のカップルに法的制度が認められるように。
- ・子育て夫婦は苦しい。シングルから子育て支援のための税金を徴収してほしい。
- ・自分より子たち世代が心配。税制等でも将来を考えほしい。
- ・日本国内に働きやすい環境を。日本経済を考えてほしい。

2. 協働団体

- ・しみず女性の会
- ・ゆい女性の会
- ・メンズサポートしずおか
- ・NPO 法人 よしよし

3. まとめ

私たちの今生活している家族の中に、講義内容の「現在家族の変化」が現れていることが分かる。家族をつくりたくても家族をつくれな社会の現状があり、日本社会はシングル化により、標準家族(近代家族)モデル前提の社会保障制度では現状に合わないことが理解できた。

これまでの家族のイメージが常識ではなく、自分が生きたい社会に、多様化を認める社会になっていくことが必要である。

家族単位の社会保障から、個人単位の社会保障への変化を考えて行かなければならないことが分かった。

平成 28 年度 あざれあ地域協働事業

みんなで
「家族」のことを考える! part2
... 講演 & ワークショップ ...

8/30 (火)
10:00~12:30
アイセル 21 4 階 研修室

基調講演 10:10~11:30 **犬塚協太先生** (静岡県立大学教授)
**「現代家族の変化と
家族の未来」**

ワークショップ 11:30~12:30 「家族」はこれからどう変わるのでしょうか、また
どのように考えていけば良いのか話しあってみましょう

【ファシリテーター】
・メンズサポートしずおか ・ NPO 法人よしよし
・しみず女性の会 ・ ゆい女性の会 ・ 女性会館
・ 静岡市男女参画・多文化共生課 の方々

・ 対象者: どなたでも (一時保育あり: 定員 15 名 無料、要予約)
・ 参加費: 無料
・ 申し込み方法: FAX または Email で受け付けます
TEL・FAX: 054-208-1234 (島田) 054-258-3280 (塩簾)
Email: k-and-m@mvd.biglobe.ne.jp

主催: しずおか女性の会
共催: NPO メンズサポートしずおか・NPO 法人よしよし・しみず女性の会・ゆい女性の会

8. 知っていますか？見えていますか？

女性と貧困

NPO 法人 世界女性会議ネットワーク静岡

代表 守屋 秀子

1. はじめに

世界女性会議ネットワーク静岡は、北京で開催された第4回国連世界女性会議・北京会議のNGO フォーラムに参加した静岡県内の女性たちを中心に、真の男女共同参画社会を推進するための団体として1998年に発足しました。更に2002年に法人化して「NPO 法人世界女性会議ネットワーク静岡」が誕生。第4回の北京会議で採択された「12の行動綱領」の一つであります「女性と貧困」を検証する上で、『知っていますか？ 見えていますか？ "女性と貧困"』というテーマでシンポジウムを開催致しました。

第1部のフラッシュスピーチでは、「若年女性の貧困」を取材されたNHK元報道記者・現さいたま放送局の記者“村石多佳子さん”に、日本の社会の現状を話していただきました。

第2部のパネルディスカッションでは、パネラーの皆様が社会の現状やご自身たちの取り組みなどを話されました。社会の現状を理解した上で、「貧困のない社会を創るためには課題は何か、私達に出来ることは何か」を皆で考える機会といたしました。

「女性と貧困」という大きなテーマでありましたが、大学生が男性も女性も多く参加されたことは、大変嬉しいことでした。また、参加してくださった多くの皆様から頂きました貴重なご

意見等は、私共の今後の活動につなげていきたいと思っています。

NPO 法人世界女性会議ネットワーク静岡

代表 守屋 秀子



2. 事業内容

【日 時】平成28年11月5日（土）

13:30~15:30

【会 場】静岡県男女共同参画センター
（あざれあ）4階 第2会議室

第一部 フラッシュスピーチ

「あしたが見えない

～深刻化する「若年女性の貧困、～」

【講 師】元NHKクローズアップ現代
記者 村石多佳子さん